



池田 実弘
Ikeda Minoru

〔上豊内区〕

いけだ みのる / 町消防団長。
今年4月に団長に就任し、約
450人の団員の指揮を執る。
災害時でも実働できる体制づ
くりを目指して活動中。

本町の暮らしを守る消防団 非常時に備え課題に向き合う

「消防団は地域防災の中核であり、無くてはならない存在です。非常時以外でも、1人暮らしのお年寄りへの声掛けや地域活動への参加など、地域に密着した活動を行っています」と話すのは町消防団

長の池田実さん（上豊内区）。入団して26年。これまで分団長や副団長を歴任し、今年4月から団長に就任。本町の安全・安心を守るために団員を束ね、地域の防災力向上に取り組んでいる。

「これまでの消防団活動を通して、日常生活では接点のない地区の団員とのつながりも深まりました。消防団での活動は、私にとって生活の一部です」と笑顔を見せる池田さん。

「5年前には500人を超えていた団員数も年々減少しています。少子化だけでなく、コミュニティの変化による『自分たちの地域は自分たち

で守る』という意識の低下も問題です。職場が町外のため日中の消防活動には参加できない団員も多数います。今後いざという時の人員不足に備えて、非常時にも柔軟に対応できる体制づくりを考えていかなければなりません」と消防団の現状を話す。

「現在、町と協力しながら団員数を確保するための取り組みを進めています。『消防団応援の店』もその一つです」と池田さんが話すのは、『応援の店』登録店舗などを団員が利用すると、料金割引などのサービスが受けられるというもの。昼夜を問わず地域のために貢献している消防団を、地域が応援しようという取り組みで、町では登録店舗を募集している。

「店舗側も新たな顧客獲得につながるため、双方に利点があると思います。この取り組みが、地域を守る団員確保につながればと期待しています」と話す池田さんは町民の暮らしを守るため、団員と共に非常時に備え、消防団の課題に向き合い続ける。